

新規陽性者の発生動向・医療提供体制の状況

(1) 大阪府の発生動向

- 夜間滞在人口は緊急事態措置解除後拡大しているが、**直近 1 週間の新規陽性者数は増加。**
- 直近 2 週間では、**20～30代が新規陽性者数に占める割合が増加。感染経路不明の割合も約 6 割と増加傾向。**
- 全国の感染状況として、**北海道、首都圏、関西圏、沖縄県において、直近 1 週間の新規陽性者数が前週より増加。**

(2) 感染・療養状況とワクチン接種状況

- 12歳以上の人口に占める 2 回ワクチン接種済の割合は、**8 割を超過。**(12/20にVRSダッシュボードよりダウンロードした数値)。
- **60代以上新規陽性者のうち、2 回接種後14日以降に陽性となった者は40.7%。他の年代も増加。**
ワクチン接種が進むことで、2 回接種後14日以降の陽性者数が増加している可能性や、ワクチンによる感染・発症予防効果の低減の可能性がある(各研究結果において重症化予防効果は比較的高く保たれていると報告されている)。
- **ワクチン接種歴別の重症・死亡の割合は、未接種者に比べ、2 回接種後14日以降の陽性者の方が低い。**

(3) 医療提供体制の状況

- 重症・軽症中等症病床使用率も低い水準を維持。

感染状況と医療提供体制の状況について

今後の対応方針について

- 南アフリカ共和国や、イギリス・デンマークなど欧州では、**急速にデルタ株からオミクロン株に置き換わり、これまでに類を見ない速度で感染者が増加。**
オミクロン株については、感染性・伝播性の高さ、再感染のリスク、ワクチンや治療薬の効果への影響が懸念。重症度についても十分な知見が得られていない。
欧州疾病予防管理センターは、**オミクロン株が入院や死亡例を増やす要因になる**との分析を発表。
- 日本では、水際措置におけるオミクロン株対策への重点化や、全ての陽性者に対する変異株PCRスクリーニングの実施、全ゲノム解析の強化などの対策を行っているが、**今後、市中感染による感染急拡大も想定**される。
各国の感染拡大速度、拡大規模がこれまでの波を上回る状況にあることを踏まえると、**行動制限の緩和については慎重な検討が必要。**
- 本格的な冬の到来に伴い、気温の低下による換気の頻度の減少や屋内活動の増加、忘年会、クリスマスやお正月休みなどの恒例行事による、普段会わない人との交流の増加など、**感染リスクが高まる場面が増加する可能性がある。**
また、ワクチンの発症・感染予防効果が低下し、**ブレークスルー感染の増加が想定**される。
ワクチン接種者も含め、**こまめな換気の実施や適度な保湿など基本的感染予防対策の徹底や、飲食の場面における感染リスクを減らすため、飲食時以外はマスク着用の徹底が必要**である。
さらに、**軽度の症状でも積極的に受診し、検査につなげることも重要。**
- 府としては、集団接種会場の設置等による**ワクチンの追加接種（3回目接種）を進めるとともに、医療療養体制の更なる整備など、第六波に向けた準備**を行っていく。
- なお、オミクロン株など新たな変異株等による**感染拡大の兆候が見られる場合**には、社会経済活動との両立を図りながらも、変異株の特性、他国や東京都をはじめとした他府県の状況なども十分に踏まえ、**早期に強い措置が必要かを見定め、迅速に対応していくことが必要。**